



中幌糠分校  
宮崎日出雄教諭

## 分校教育の特色を 生かす

八年前に天塩小学校から、この分校に就任しました。当時は、一年、三年、四年、五年生の四名、

教職員が三名おり、二名は編集を免  
強していました。

分校での生活は、私自身も農村  
育ちでしたので精にあつていると  
言いますか、とても楽しいです。

校庭の裏に畑を耕し、子どもた  
ちといっしょに野菜やくだものを  
作つたりしました。

大地に種をまき、その大地から  
食物ができる。素晴らしい自然の原  
理ですね。それを実際に肌で感じ  
て学ぶことができるのは、分校教  
育、少人数の現場ならではの特色  
だと思います。

3月で閉校になり寂しい気持で  
すが、これも時代の流れなのでし  
ょうね。

当時の中軒橋小学校は、農平の炭坑で働いていた人たちも多くいましたので、全校生徒は五十人程度いました。私の同級生は、十人でした。



## 第十四回 中幌糠小学校卒業生 杉山 光雄さん

## 思い出は 旭川への修学旅行

学校がなくなると遊びに行けない

いまは、もう慣れてしまったので寂しくありません。勉強は、算数と国語が好きです。算数は、いまソロバンを習っています。冬は、裏山でスキーをしています。ときどき先生とキヤツチボールもします。

先生といつもいっしょなので、お父さんみたいです。勉強も、僕が解るまで教えてくれます。もうすぐ卒業です。分校がなくなると遊びに行けなくなるので残念です。

春からは、中学校へ行きます。たくさん友だちができると思うと、今までで、みんなと野球をします。

授業でしたので同級生がいないのがとても寂しかったです。中学、高校と多くの友だちと出会ったことを考えると、同級生は大切であると知りました。各学年、いつも私ひとりでした。何をしても一番という状態は、私の競争心を奪っていました。分校での楽しかった思い出は、炊事遠足です。中幌ダムへ行きジンギスカンを食べました。

生が私たちを海や山に連れて行つてくれました。

クラブ活動は、幌糠小学校へ行ってやつっていましたが、あまり知つてゐる人もいませんでしたので積極的ではありませんでした。



中幌糠分校六年  
平井 哲也

友だちの大切さ  
知りました

友だちの大切さを  
知りました

A black and white portrait of a young woman with short dark hair and round-rimmed glasses, smiling. She is wearing a dark t-shirt. The background is a plain, light-colored wall.

分校のあゆみ

▼昭和三十七年十二月 校内に初めてテレビを設置。

▼昭和四十一年十月 同校で留萌市複式教育研究会を開催

▼同年十一月 留萌市学校音楽祭に初参加。

▼昭和四十五年四月 四十五年度の入学児童がいないため休校となる。

▼昭和四十六年四月 今までの独立校から幌糠小学校中幌糠分校となる。

▼昭和五十年四月 学校給食が開始。

▼昭和五十二年三月 第一回卒業生。

▼昭和五十二年五月 学校農園を完成。

昭和五十八年三月三十一日 中幌糠分校閉校。

# 中幌糠分校が閉校 さよなら、我が母校

3月23日閉校式

昨年四月に、留萌小学校のマンモス化の解消と沖見地区の人口増加に対応するため、沖見小学校が開校しました。一方、中幌糠地区の人口減少により中幌糠分校が三月三十一日閉校されます。マンモス化と過疎化——相反する現象が、ひとつのマチに存在しています。しかし、六年間すごした学びの果は、それの人の心に忘却がたい思い出を作つてすることはたしかです。

A black and white photograph capturing a moment in a traditional Chinese environment. On the left, a man with glasses and a dark jacket stands behind a table, his hands reaching towards a small white object. On the right, a woman in a patterned dress sits at a desk, looking towards the man. In the background, a bookshelf is filled with books, and a framed calligraphy piece hangs on the wall. The scene is set in a room with a warm, historical feel.

学校中幌糠分校があります。同校は、独立校としての中幌糠小学校から幌糠小学校に所属する中幌糠分校へと、同地区の過疎化とともに様子を変えてきました。十年前、中幌糠には八軒の定住農家がありましたが、毎年人口が減り、いまではわずか二軒の農家が定住しているだけです。農地も約半分以上が休耕していますし、開耕している農家も、夏期間は中幌糠で、冬期間は幌糠や留萌で生活する方法をとっています。

分校が一番眠わったのが、在校生四名、教職員三名のときでした。現在は、先生と生徒の二人きりです。

分校の授業の利点は、学習面でいえば子どもの能力に応じて理解するまで学習させていくことがあげられます。

しかしその反面、同級生がないことは子ども同士の話し合いができず、ひとつ目の問題について他の意見を聞きながら思考を深めていけない欠点もあるでしょう。

いまのところ、児童が分校入学生する見込はありません。分校十二年間の幕を閉じます。